



有限会社大村フードサービス

業種	宿泊・飲食サービス業	事業所所在地	群馬県伊勢崎市	資本金	5,000千円
		売上高	非公開	従業員数	29名

 	被承継者（左）		
	須永 浩之	74歳	※承継時
			承継者（右）
	須永 亜有美	43歳	※承継時
事業承継を行った時期		被承継者と承継者の関係	
2019年2月		子ども	
承継前の主たる事業の内容		承継前の主たる事業の課題	
遊園地の売店		・新商品・新サービスの開発	世代の違いにより、店舗の目指すべきビジョンが異なっていたこと。

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 1年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
被承継者（父）は長年飲食店を経営してきたが、体力に陰りが見え始めたことから事業承継するきっかけとなりました。	設備投資して、リニューアル工事をするかどうか。	集客率が下がり収入が減ること。
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	特になし。	オペレーションや発注等に不備が生じるのではないかと。

これに一番苦労した！

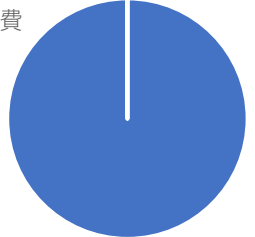
被承継者と承継者お互いに不安があったため、事業承継が進まない状況であった。事業承継補助金の活用がきっかけとなり事業承継に取り組むことができた。

事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
商工会・商工会議所	事業承継補助金の資料作成、事業計画の考え方についてサポートを受けた。
いつから相談？	
承継実行の 1年前	
相談のきっかけ	
事業承継のために承継者または被承継者自身がアプローチした	

経営革新等に係る取組の標題

県内外からの遊園地来園者に向けた地元食材と観光資源のPR事業

経営革新等に係る取組の内容	新商品の開発又は生産
<p>●当社は、県外からの利用者が多い遊園地内で、主にハンバーガーやポップコーンなどを販売する売店を運営しているが、老朽化した店舗に加えて販売する土産物では一般的な商品が多く地元らしい商品を取り扱っていないことが課題であった。</p> <p>●そこで、事業承継を機に、老朽化した遊園地内売店のリニューアル、地元食材を活用した新たな土産商品の開発、周辺地域の観光資源をPRする事業計画を立てた。そのため、本補助金を活用して、築30年の老朽化した売店建物を子どもの目を引くような明るい色彩を用いた外観に一新し、内装もLED照明や温かみのある木製陳列棚に入れ替えて、新たに地元の土産物を販売するコーナーを設置した。また、自社工房を建設することで、承継者が培ってきたオーガニックカフェでの菓子製造の技術と知識を活かした地元の食材を使ったオリジナル商品（地元の卵や味噌を使用したドーナツ等）の開発を行う。</p> <p>●群馬県ならではの土産物コーナーでは、帰宅後も群馬を思い出してもらえるような土産物を販売するとともに、土産物コーナー付近には観光マップやパンフレットなどを置いたブースで、地域情報を県内外へ発信する拠点となる取り組みも行う。</p>	
	 

地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
当店の利用者に対して周辺地域の情報を提供することにより、地域観光の一助となる。	<p>■ 設備費</p>  <p>経費の主な使い道</p> <p>設備費：工房新設工事費、遊園地売店改修工事費、各種備品費（群馬土産コーナー棚、物販木製棚、パンフレット用棚等）</p>

認定経営革新等支援機関の名称：伊勢崎商工会議所

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容

制度内容の理解 事業計画の立案 各種提出書類の作成 補助事業の実施

補助金の申請書や実績報告書の書き方のサポートだけでなく、事業スケジュールについての考え方なども指導を受けた。

今後に向けて～次の目標	
2020年から2023年に向けて	SNS等の情報発信ツールの活用や地元食材を使用した商品の開発及び販売に取り組む
売上高 10 %UP	

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
事業承継を行うために時間的余裕を持って取り組むことが大事だと思います。	早い段階からの話し合いが必要です。また、親子間での事業承継なので知識不足になる恐れがありますので、認定経営革新等支援機関に相談してサポートを受けることで不安が解消されると思います。